

4. 都市計画マスタープランの進行管理と見直し

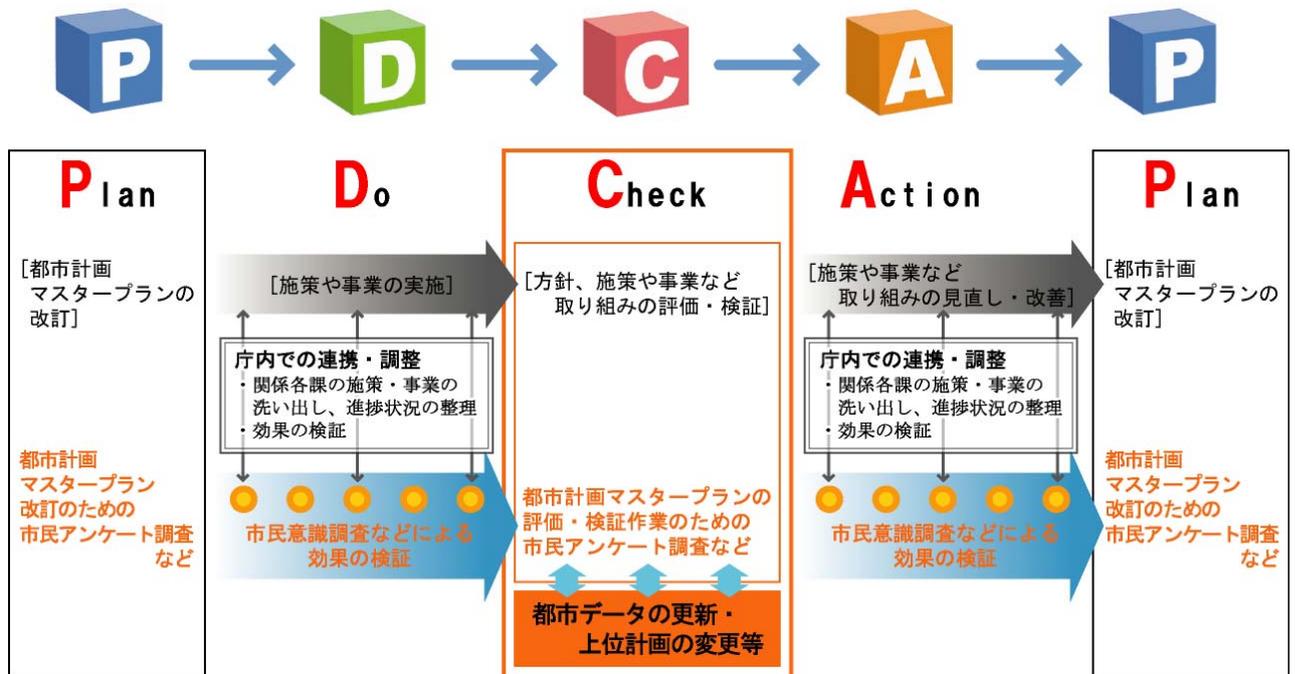
(1) 計画的な進行管理

都市計画マスタープランは、概ね 20 年後を目標年次として都市づくりの方向性を示すものであるため、今後の各種施策や事業は社会経済情勢などを踏まえつつ段階的に取り組まれることになります。

このため、施策・事業の進捗状況の管理や市民意識調査による効果の検証などにより、絶えず都市計画マスタープランの達成状況について評価・検証を行い、庁内関係各課の連携・調整のもと計画的かつ適切にPDCAサイクル*によって将来像の実現を目指します。

また、都市計画マスタープランのチェック（C）に当たっては、計画が硬直化しないよう、都市データの更新や上位計画の変更等の視点も踏まえて評価・検証を行います。

なお、計画の進行管理に当たっては進捗状況を市民に公表し、理解と協力を得ながら実施していきます。



■ PDCAサイクルによる進行管理のイメージ ■

※PDCAサイクル

Plan（計画）⇒ Do（実施・実行）⇒ Check（点検・評価）⇒ Action（処置・改善）の頭文字をとったものであり、この流れを繰り返すことで、事業や施策などの継続的な改善を図っていかうとする考え方。

(2) 都市計画マスタープラン見直しの考え方

本格的な少子高齢社会の到来や都市間競争の激化など、南丹市を取り巻く社会経済情勢は刻一刻と変化しています。

このため、時代の潮流や財政状況、市民のライフスタイルや価値観の変化などに応じて、重点的かつ効果的な投資を行うなど、まちづくりの施策・事業の進め方も柔軟に対応していくことが求められています。

都市の将来像や都市づくりの骨格となる取り組みは今後も原則として継承しますが、都市計画マスタープランが実効性のあるプランとなるように、次のような視点で見直しを行います。

① 経年変化に応じた見直し

国勢調査や都市計画基礎調査などによる、最新の人口や産業、土地利用、開発状況、各種施策の進捗状況など、様々な都市データを整理し、数値データを更新するとともに、将来予測についても見直しを行います。

各種施策の進捗状況を確認しながら、今後のまちづくりに関する市民意識の高まりや市民ニーズの変化を踏まえつつ、次のステップを見据えた施策への展開を検討します。

② 上位計画等の変更に伴う見直し

都市計画マスタープランは、基本的に策定時点での上位計画を踏まえて策定しています。これら上位計画についても、社会・経済情勢の変化に応じて定期的に見直しがされています。上位計画の大幅な見直しによって都市計画マスタープランの内容とズレが生じた場合には、都市計画マスタープランを見直していきます。

③ 市民主体のまちづくりと連動した地域別まちづくり構想の見直し

今後、市民の皆さんの自立的な取り組みによって身近なまちづくりが進展し、新たなステージへと進んだ際には、その時点における市民と行政の協働のまちづくりのあり方を踏まえ、地域別まちづくり構想の位置づけ及び内容を見直していきます。